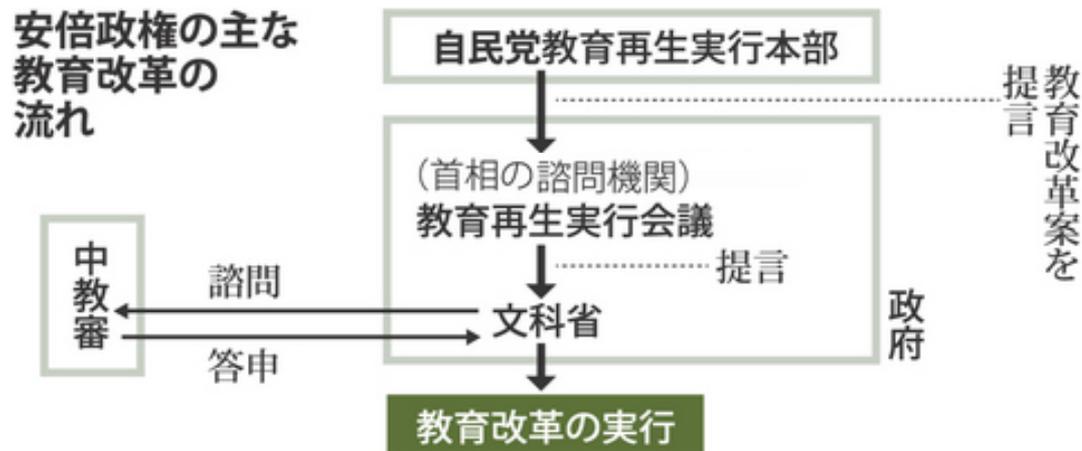


大学入試がどのように変わるのか

■ 教育再生実行会議の構造

教育改革の推進エンジン = 「教育再生実行会議」

教育再生実行会議では教育政策の大きな方向性を定め、具体的な制度の在り方や実行方策などについては原則として、中教審で審議(諮問→答申)される。 ※下図参照



安倍政権が手がけた教育改革

■ 教育再生実行会議構成メンバー(2013年1月15日～2015年10月5日)

※敬称略・有識者は五十音順

	安倍 晋三	第97第内閣総理大臣
	下村 博文	文部科学大臣
	漆紫 穂子	品川女子学院校長 ※平成26年9月17日より
	大竹 美喜	アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)創業者
	尾崎 正直	高知県知事
	貝ノ瀬 滋	政策研究大学院大学客員教授
	加戸 守行	前愛媛県知事
	蒲島 郁夫	熊本県知事
座長	鎌田 薫	早稲田大学総長
	川合 眞紀	東京大学教授、理化学研究所理事長特別補佐
	河野 達信	岩国市立高森小学校教諭、前全日本教職員連盟委員長
	佐々木 喜一	成基コミュニティグループ代表
	鈴木 高弘	専修大学附属高等学校理事・前校長、NPO法人老楽塾理事長
	曾野 綾子	作家 ※第四次提言平成25年10月31日まで
	武田 美保	スポーツ/教育コメンテーター
副座長	佃 和夫	三菱重工業株式会社相談役
	向井 千秋	東京理科大学副学長、日本学術会議副会長 ※平成26年9月17日より
	八木 秀次	麗澤大学教授
	山内 昌之	東京大学名誉教授、明治大学特任教授
	遠藤 利明	自民党 衆議院議員 / 教育再生実行本部長
	富田 茂之	公明党 衆議院議員



アベノミクス / 3本の矢

- ① 大胆な**金融政策**
- ② 機動的な**財政政策**
- ③ 民間投資を喚起する**成長戦略**

長期デフレを脱却し、
名目経済成長率
3%を目指す。

【短期・中期方針：規制緩和・改革】

岩盤規制(役所や業界団体などが改革に強く反対し、緩和や撤廃が容易にできない規制)の緩和・改革により、特に農業・医療・介護・エネルギー・教育の分野において今後の更なる成長・発展を促す。

【長期方針：人財輩出・一億総活躍社会】

経済成長に加え、子育て支援と社会保障の充実を実現し、少子高齢化に歯止めをかけ、50年後も人口1億人を維持し、家庭・職場・地域で誰もが活躍できる「一億総活躍社会」を目指す。

●これまでの提言内容

第一次提言	いじめの問題等への対応について	平成25年2月26日提出
第二次提言	教育委員会制度等の在り方について	平成25年4月15日提出
第三次提言	これからの大学教育等の在り方について	平成25年5月28日提出
第四次提言	高等学校教育と大学教育との接続 大学入学者選抜の在り方について	平成25年10月31日提出
第五次提言	今後の学制等の在り方について	平成26年7月3日提出
第六次提言	「学び続ける」社会、全員参加型社会、 地方創生を実現する教育の在り方について	平成27年3月4日提出
第七次提言	これからの時代に求められる資質・能力と、 それを培う教育、教師の在り方について	平成27年5月14日提出
第八次提言	教育立国実現のための教育投資 教育財源の在り方について	平成27年7月8日提出

◆AERA160201号「大学入試改革とアクティブラーニング」特集

下村博文・前文部科学大臣が語る「入試改革の狙い」

～情報化社会を生き残るため偏差値で測れない能力問う～ より

- 偏差値ランキングによる入試を変えるということが鍵になります。暗記や基礎も一定レベルは必要ですが、**もっと重要なのは偏差値で測れない三つの能力…課題を主体的に解決する力、無から有を生む想像力、優しさや慈しむ力…を入試で問います。**

～中略～

- （各大学における個別選抜の）小論文や面接などは、試験官によって評価が違うこともありますし、コストもかかります。なので、たとえば、定員1000人のうち100人など、部分的にでもこうした入試にチャレンジする大学には、国からの財政支援が始まります。



【学力の3要素と3つのテストの位置づけ（イメージ）】 ※それぞれのテストで、学力の3要素を見る。

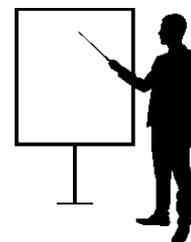
	学力の3要素				
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性		
高 ↑ テストの難易度 ↓ 低	A : 高等学校 基礎学力テスト	B : 大学入学希望者 学力評価テスト	C : 各大学における 個別選抜 (独自の評価、選抜方法) ※小論文・大学入学希望理由書・ 学修計画書・面接・集団討論・ プレゼンテーション・調査書・ 推薦書等		
	短期	←	身に付けるためにかかる期間	→	長期

【補足説明：3つのテスト】

各大学における個別選抜

③各大学における個別選抜 具体的な評価方法の例

- 1. 「大学入学者希望者学力評価テスト」の結果
- 2. 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法
- 3. 調査書
- 4. 活動報告書（個人の多様な活動・ボランティア・部活動・各種団体活動等）
- 5. 各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の結果
- 6. 推薦書等
- 7. エッセイ、大学入学希望理由書、学修計画書
- 8. 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション
- 9. その他



(例)
京都大学特色入試
の提出資料
「学びの設計書」

※高大接続システム会議
「中間まとめ」 P36より

各大学のアドミッション・ポリシーに基づいて、これらの評価方法等を用いて、各大学それぞれの個別選抜が行われる。

■ 教育再生実行会議第7次提言より

● これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力として、次のものが挙げられている。

- ◎ 「主体的に課題を発見し、解決に導く力、志、リーダーシップ」
- ◎ 「創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感」
- ◎ 「感性、思いやり、コミュニケーション能力、多様性を受容する力」

※教育再生実行会議 第7次提言P2～3より引用

各大学における個別選抜では（ひいては社会では）
これらの11の資質・能力の方が求められるのでは？

【これからの大学の体制・求められること】



どのような学生に来てほしいのか？

**アドミッション・ポリシー
(入学者受入れ方針)**

- どのような学生（高校生）に来てほしいか。
- どのような資質や能力を持った学生に来てほしくて、それをどう評価するか。

**「建学の精神」
・「教育理念」**

大学の独自性・個性・価値

**カリキュラム・ポリシー
(教育方針)**

- どのような教育理念(建学の精神)に基づいて、どのような教育課程(カリキュラム・教科・科目・シラバス)で人財を育成していくか。



どのような卒業生を輩出するか？

**ディプロマ・ポリシー
(学位授与方針)**

- (受け入れて、教育を施した結果) 卒業時にどんな能力を身に付けているのか。
- どのような人財を社会に輩出するか。

大学入試～入学～卒業まで、3つのポリシーに基づいた学びや指導
高校生の「志」

- 私は将来こんなことをして、社会で貢献したい。
- そのためにこの大学でこんなことを学びたい。


大学の「志」

- こんな学生に来てほしくて、こんな教育をして、こんな人財に育成して、社会に輩出したい。
- それにより社会に貢献していきたい。

これからの大学入試は、
「お互いの志をマッチングさせる入試」
＝「相互意志確認型入試」
であると言える。

高校生の「志」

- 私は将来こんなことをして、社会で貢献したい。
- そのためにこの大学でこんなことを学びたい。



大学の「志」

- こんな学生に来てほしくて、こんな教育をして、こんな人財に育成して、社会に輩出したい。
- それにより社会に貢献していきたい。

- 大学側と、高校生側が相互に、それぞれの意志を確認し合う入試となる。
- そのために、大学側の「志」（こんな学生に来てほしくて、こんな教育して、こんな人財に育成して、社会に輩出するか）と高校生側の「志」（私は将来「こんなことをして、社会に貢献したい、そのためのこの大学で学びたい）をいかにマッチングさせることができるかが重要。

世界や社会の川上という
ポジションとは最初から
別の社会へ。

これまでも一部の
難関大学・学科で
目的を持って学んだ
大学生のための
進路があった。

入ってしまえば
それほど苦勞の無い
平坦な大学生活。

入学したら
ある意味ゴール！

偏差値評価
の大きく、高い壁

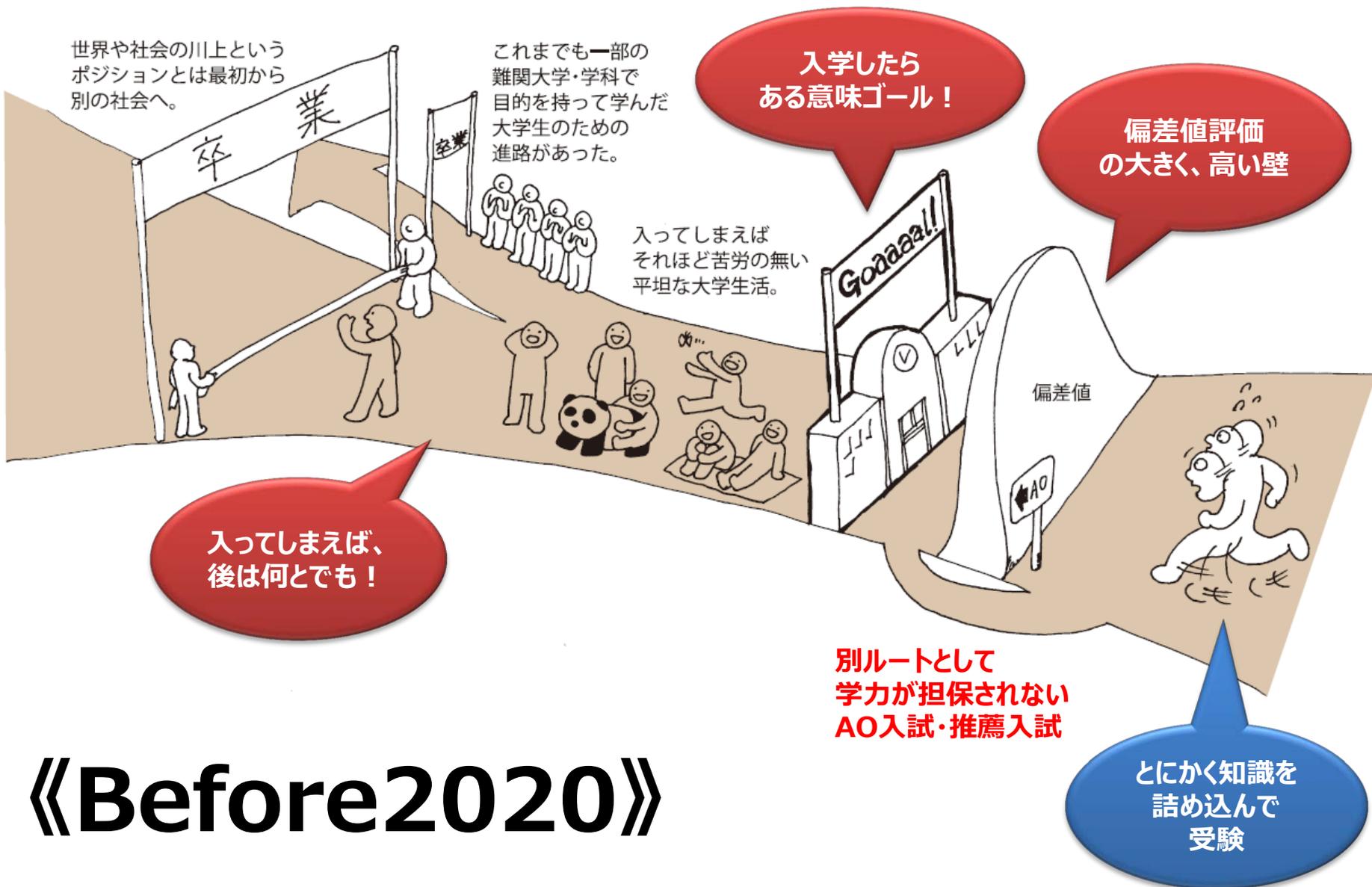
入ってしまえば、
後は何とでも！

偏差値

別ルートとして
学力が担保されない
AO入試・推薦入試

とにかく知識を
詰め込んで
受験

《Before2020》



卒業も狭き門に。
ただし、卒業する頃には
それぞれの志に応じた
知識と21世紀型スキルが
備わっている。

大学の志に
基づき、
鍛える！

受験生の
多面的評価のため、
偏差値以外の
色々な壁

今までの偏差値だけの
輪切りの入学選抜ではなく
入学選抜をすることで
多様な人財を採る。

様々なカリキュラムで
大学生を鍛える。

大学の志に
基づく、厳しい
卒業基準

将来●●をしたい！
だからこの大学に
入りたい！

《After2020》

